

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400620		
法人名	有限会社 とき		
事業所名	グループホーム かあちゃん家		
所在地	長野県長野市鬼無里 11491-4 (電話) 026-256-2216		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年11月8日	評価確定日	平成19年11月8日

【情報提供票より】 (平成19年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	13人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要(平成19年11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 88歳	最低 82歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・鬼無里診療所 ・鬼無里歯科診療所 ・長野赤十字病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野市に合併した旧鬼無里村に小鬼無里という集落があり、バス停から10分ほど歩くと色づいた山裾にホームがある。地域の方が「今日は行ってもいいかえ」と囲碁の対戦に訪れたり、小学生が入居者相手に宿題の読書を行って家族代わりの確認のサインをもらったりしている。毎年のやしょうま作りは地域の方と入居者が協働して作り、近隣18軒に配っている。また、地域性や人柄もあってか、入居者が散歩をしていても地域の方が温かく見守り、ホームとの連携も取りながら、時には野菜や花をお土産に持参することもある。入居者の生きがいと地域の方が仕事の材料を持ち込んでいることも新鮮で驚きであった。地域とホームの関係は非常に親密であり、ホームは温かい目で見守られ、可愛がられているという印象を強く受けた。地域密着型サービスに求められているケアサービスを管理者、職員全員で懸命に実践しており、各入居者に合わせた良質なサービスが提供されているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回で3回目の評価であるが、過去の評価で得た問題点は職員で検討し現在は改善されている。自己評価項目一つひとつのねらいをしっかりと理解している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は日々の業務や活動を見直す良い機会となっており、外部評価では普段気づかない新たな問題点の発見につながると理解し取り組んでいる。外部評価を受審することで更なるサービスの向上に繋がることから、今後も続けていきたいという意向がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一回行なわれ、ホームの様子を直に感じとり確認してもらい良い機会であると、ホームのホールで会議を行っている。会議メンバーの入れ替わりもあるが、会議の目的が理解されており、毎回活発な意見交換がなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	普段は家族の来所時に話を伺う機会を設けている。また、家族会にはあんしん相談員や苦情相談員も参加しており、家族の声が表出しやすいうになっている。家族会で出されたどんな些細な意見も取り上げ、運営に反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームと地域の方々が共に暮らし共に助け合う関係が窺える。ホーム側から近隣の方に声をかけ、豆などを預かり、入居者は皮むきや選別などの手伝いをしている。入居者が自由に外出しても、地域の方が電話で知らせてくれたり、野菜や花が届いたり、共存関係が成り立っている。地域で行われる運動会、文化祭、舞台発表会等にも積極的に参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H16年10月に開所された時に作られた理念ではあるが、その内容は「この地で、この時を大切に安心して幸せに暮らせる家づくり、豊かな自然と伝統を生かして地域と交流を図り、一人ひとりがその人らしく普通の生活が送れるお手伝いをする」という内容であり、地域密着型サービスを目指した内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議以外でも話しやすい環境づくりをし、職員と共に理念を共有しながら実践に取り組んでいる。ミーティングやスタッフ会議、また日常的な会話の中(入居者の自立支援、地域の人々との交流、小学生の訪問等)でも、話し合いを重ね具体的なものになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる運動会、文化祭、舞台発表会等の行事に参加し、地域住民と積極的に交流を深めている。入居者は民謡を習い、住民に混じって踊りを楽しんだ。近隣の住民からは誰かれとなく、「何か手伝うことはないかえ」、「今日行ってもいいかえ」等とホームに連絡が入る。ホーム側からも「何か仕事はないですか」と地域に声をかけ、現在は豆の皮むきの手伝いを入居者が行っている。地区の住民からは常にホームへの関心が高く、野菜や花が届いたり、囲碁の相手をかけて出るなど数え切れない好意を頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々の業務や活動を見直す良い機会、外部評価は普段気づかない新たな問題点の発見につながると理解しており、役立っている。今回で3回目の評価であるが、過去の評価で得た問題点(記録物への職員の確認、外まわりの危険場所など)は職員で検討し現在は改善されている。		

グループホーム かあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2カ月に一回定期的に開催されている(昨年4回)。会議はホームの様子を理解して頂ける機会でもあるからとホームのホールを使っている。メンバーにお茶を出す入居者もいる。メンバーは入れ替わる事もあるが、ホームを良くしていくため地域でどうあるべきか等会議の目的を理解されていることもあり、毎回活発な意見交換がされている。12月にはクリスマス会と推進会議を一緒に行う予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉の担当者、保健師等と連携をとっている。運営に関する報告・相談を行い、指導・助言を求めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2カ月に一回施設便りを発行し、入居者の生活の様子やホームの行事などを家族に伝えている。日頃の様子や行事などはアルバムに収められている。アルバムは個別用、全体用と作られていた。健康状態については緊急時も含め電話で報告している。金銭管理については、2カ月に一回家族に確認して頂きサインをもらっている。ホームの決算報告書も4月の家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には話を伺う機会を設けている。運営推進会議には家族会代表も参加している。また、家族会にはあんしん相談員や苦情相談員も参加しており、家族の声が表出しやすいようになっている。どんなに小さな意見でもとりあげ、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動はないので入居者と職員間に良好な関係が保たれている。職員が変わることでホームの雰囲気が変わることを重々承知しており、馴染みの職員が対応していくことを大切にしている。		

グループホーム かあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時や経験年数に応じて、職員が定期的に認知症研修に参加している。知識の共有を図るため、報告会や勉強会を開いている。また、日々のサービス提供の中から気づいたこと等をミーティングで話し合い、職員全体の介護の質の向上に努めている。現在2名の職員が介護福祉士の資格を取得するため出勤扱いで研修を受講している。殆どの職員がヘルパーの資格を有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域のグループホームとの交流や認知症のケース検討会に管理者が参加している。他のグループホームへの視察研修には職員が交代で参加している。また、視察研修も受け入れている。職員は同じところへ視察に行き、同じ目でみて意見を出し合いサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学、体験利用は1～2回家族同伴のもと行なわれている。来訪できない場合は管理者が病院や施設への訪問をし把握している。本人が納得した上でサービスを開始しても、始めのうちは環境の変化になじめないこともあるが、入居者が安心して利用できるように家族と共に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の姿勢には、入居者は人生の先輩であるという認識を持ち関わっていることが窺えた。入居者からは野菜作り、山菜の取り扱い方、生活の知恵など教えられることが多い。戦争の話や戦友の歌を16番まで教わったりしている。職員が通勤の帰り道、ハンドルの握りながらその歌を口ずさんでいる自分に驚いたが嬉しかったという話も聞くことができた。入居者の話や一言に人生の重みを感じる機会が多いとも職員から伺った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や本人からも聞き取りをする が、毎日の会話などからも思いや意向の把握に努めている。表現が難しい入居者に対しては生活歴などから勘案し、工夫をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望・要望を聞いた上で、入居者の状態や要望に応じた目標指向型の介護計画が作成されている。介護計画は家族にも説明し確認印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月と定期的な見直しが行われている。24時間生活アセスメントシート、モニタリングも活用している。入居者の変化に応じ職員、家族、医師の意見も取り入れ、現状に即した新たな計画を作成し、適切な支援ができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの依頼があれば職員が代わって通院や買い物等に付き添っている。入居者の帰宅願望に対し家族への協力をお願いしたが、困難な場合はホームの車で自宅まで送迎した。その結果、今ではホームが自分のいる場所と納得し、落ち着いた生活をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望もあり、今までのかかりつけ医からホーム近くの診療所に主治医が替わっている。今までの疾患や健康状態などは診療情報提供書で診療所の医師に引き継がれている。何かあればいつでも相談できるし、注射も出来るので大変心強い体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における指針が作成されている。看取りは家族会の場でも話し合われている。入居者と家族から別々に病気が悪化した時の対応について希望を聴取している。「入居してしばらくしてから」と「状態が悪くなった時」など数回にわたり繰り返し確認している。すでに3人を看取っている。数日付き添い看取りを行った家族からは「別れは寂しいが、いいお見送りができた」と感謝の言葉を聴くことが出来たと管理者から伺った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時には運営規程を説明している。個人情報、守秘義務に関しては誓約書を取っている。職員は入居者一人ひとりの尊厳とプライバシーの保護の徹底に努めている。外部の訪問者が多いので、管理者はそのための職員教育も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな予定はあるが、入居者からの希望があれば臨機応変に対応している。例えば、今日はお風呂に入りたくないとか、居室で食べたい等要望があればその希望にそっている。前日ホーム近くの稲を刈った田んぼを見た入居者が、次の日に長靴をはいて稲のハゼカケをしていることもあるなど、自由に入居者が過ごせるように見守り、支援している。		

グループホーム かあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームに隣接している菜園で入居者と共に野菜を栽培し収穫している。自分達で作った野菜を食材に、慣れた手つきで一品料理を作る入居者もいる。旬のものを旬に食べるをモットーに季節の食材をふんだんに使い、入居者と職員は楽しみながら調理をし、食事を取り、片付けを行っている。職員の一人が栄養士でもあるが、時々献立を確認し、栄養バランスに留意している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決まっているが、その日の入居者の希望で入浴日を変更することもある。湯温は熱め(43度)やぬるめ(40度)、湯舟の中で洗身する人など入浴の仕方もまちまちであるが、一人ひとりの希望に合わせて気分良く入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割がある。夜の泊まりの経験を活かし、夜中に巡回をして鍵や電気を確認している入居者や明るくなるとベランダに出るガラス戸の鍵を開け畑に行き食材をとってきたり、玄関の鍵を開け新聞を持ってくる入居者等もいる。他にも台所仕事、掃除、カレンダーの日めくりなどを役割にしている方もいる。囲碁の好きな入居者は地域の人を相手に対戦に熱中している。また、地域の方々から持ち込まれる豆のサヤとり・選別などの仕事は入居者皆で行っている。責任を持ち、意欲的に生活を送っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体力に合わせ菜園での作業や散歩を日課としている。菜園での作業、近所の家の白菜とりのお手伝い、稲のハゼカケなど、入居者自らが作業を探し手伝うこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。入居者は自由にベランダ、玄関から外出している。入居者が外出しても訪問者があってもわかるように玄関には風鈴をつけてあった。散歩をしている入居者を見た地域の人から「どこそこを歩いているがいいんかえ～」など電話がかかってくることもある。		

グループホーム かあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、消防団、地区自主防災会の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。避難は回を重ねてきたこともあり、入居者も落ち着いて行動している。有線放送で地区内に災害訓練の放送が流れると地区の人達はホームに駆けつけ救助活動に参加している。職員以外が入居者を救助する場合を考えて、居室の入り口には工夫された表札があり、また搬送の仕方にもシールが使われひと目で分かるようになっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、栄養バランスの取れた食事が提供できるように努めている。また、入居者一人ひとりの食事量・水分摂取状況も観察し、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	薪ストーブのある居間のコタツには入居者が一人横になりながらテレビを見ていた。居室前の広いホールには応接セットが2カ所あり、その一つには囲碁セットが置いてありいつでも使えるようになっていた。昼食後、入居者が一人囲碁を長い時間かけて楽しんでいた。台所兼食堂の大きな窓からは戸隠西岳がみえる。入居者は思い思いの場所でおしゃべりしたり、作業などしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、自宅と同じ雰囲気になるよう工夫されていた。「私の部屋を見て下さい。散らかっていて恥ずかしいが…どうぞどうぞ」とお招き頂いた。居室の窓からは紅葉の山々やホームの畑、小川なども見えた。「いい部屋でしょう～」という言葉と誇らしげな眼が印象的だった。		

※  は、重点項目。